

広報
9月号

東京都製紙原料協同組合

発行所
東京都製紙原料協同組合
台東区台東3-16-1
TEL (3831) 7980
発行人 近藤 勝
編集広報委員会



芦ノ湖

〈 主 な 内 容 〉

時の視点					
青年部との懇談会レポート	2~3	納涼会を開催	城南支部長 坂田 智	9~10	
副理事長 清水弘允		〃	文京支部長 山田祐康	10	
第25回 古紙関係協議会	3~5	〃	荒川支部長 藤井康夫	10	
第46回 通常総会開催	5~6	〃	千代田支部長 近藤正彦	10~11	
東京返本加工協同組合 事務局		山手支部 家族・従業員慰安会を開催		11	
清風会研修会及び納涼会	6~7	山手支部厚生部長 中谷浩康			
広報部副部長 脇 克美		〔組合員紹介〕 荒川支部 宮内啓悟		11~12	
直納部委員会及び納涼会	7	組合員の広場			
東京都製紙原料協同組合 事務局		五里霧中 広報部副部長 伊藤 滋		12	
組合主催ゴルフコンペ開催	7~8	無知と云う名の〇〇		13~15	
青年部幹事長 梨本竜範		専務理事 夏目 茂			
印刷産業連絡協議会の青年部参加	8	支部スケジュール		16	
青年部幹事長 梨本竜範		お知らせ		17	
青年部 近藤英彰		「10月会議・催事予定」古紙価格			
支部便り		会議概要〔7月〕		17~22	
納涼会を開催	9	表紙写真募集 広報部部长 清水弘允		23	
〃	9	編集後記 広報部副部長 伊藤 滋		23	
台東支部 近藤昌和		広告		24	
江墨支部長 松井隆宏					

時の視点

青年部との懇談会レポート “業態変化に敏感になろう”

副理事長 清水 弘允

開催日：平成23年8月4日(木) 於上野「ZIP」

青年部の皆さんは今からの古紙業界を背負う世代である。そうであるならば10年先、20年先の古紙業界がどう変化していくのか人一倍アンテナを伸ばし敏感であって欲しい。

古紙業界と言わず、ほとんどすべての業界が日々どんどん変化している。今日はその話をする事で左証としたい。



① 喫茶店

昔から喫茶店はどこの街角にもあり、モーニングサービスがあり、新聞・漫画本が置いてあり、タバコを吸いながらゆっくり時間を過ごす所であった。しかし現在の喫茶店の主流はドトール・コーヒーやスターバックスに代表されるように、どのチェーン店に行っても品質が一定し、安く美味しいコーヒーが飲める店が主流である。

② 文房具店

昔はどこの街角にも文房具店があった。しかし現在は法人向け通販が伸び PLUS 系「アス

クル」を筆頭に、大塚商会「たのめーる」、コクヨ系「カウネット」がシェア争いをしている。

文房具店ルートで圧倒的にシェアが高かったコクヨが通販で出遅れたのは、既存ルートへの遠慮があったからで、業態改革に積極的に取り組めなかった一例である。

③ 宅急便

昔は国鉄チッキ（小荷物）に代表されるように物を送るのは不便であった。それが宅配便の普及で大変便利になり、ヤマト宅急便、佐川急便が宅配便で圧倒的シェアを確立し、街の隅々まで手押し車で届けるまでになった。ここまで高くなったシェアは余程の事がなければ逆転は不可能である。

日本通運が出遅れたのは、やはり既存ルートで圧倒的シェアを持っていた事が足かせになったからだろう。

④ 理髪店

QBに代表される10分1000円整髪が伸びている。従来型の理髪店への客の不満を見事に解消して新しい業態を作り上げた例である。

⑤ 家具店

従来型の婚礼家具主体の家具店は、収納家具が備わったマンションや戸建ての普及でドル箱商品を失った。その上、SPA 製造型小売業としてニトリ家具が出現して独り勝ちとなり圧倒的シェアを確保した。国内の家具製造業者、家具問屋、家具小売店とも壊滅的な打撃を受けている。対抗しているのは北欧のイケア家具とホームセンターだけである。

⑥ アパレル

従来は百貨店、洋品店が主要な販売チャンネルであったが、SPA 製造型小売店として企画・製造・販売・物流・在庫・出店まで垂直統合度の高い販売形態が出現して業界図が一変し

た。ユニクロ、H&Mがその典型で、GAP、ZARA、しまむら等が同様の業態と言える。

⑦ 百貨店

百貨店はアパレル、家電製品を筆頭にした専門店の業態開発に太刀打ちできず、従来型婦人服とデパ地下の食材に特徴を残すのみとなった。

ユニクロ、良品計画、東急ハンズなどの集客力の高い業態をテナントとして受け入れている。

⑧ 書店

全国の書店数は過去10年間で2.2万店から1.6万店と30%減少している。ただし書店の床面積は15%増加している。要するに都会型大型書店は増えている。またブックオフの出現で中古本・新本の垣根が低くなり、アマゾン、楽天の通販による売り上げは伸びており、本だけでなく、あらゆる商品の流通形態を変えつつある。更に電子書籍が普及期に入り、米国第2位の書店ボーダーズが経営破綻した等、米国では出版、流通ともに大きな転換期に来ている。日本は米国と事情はかなり異なるので、同じ変化が起こるとは思えないが、単に本を電子化するだけでなく、音が出てきたり動画と連動するなど付加価値の付いた本として今後変化を遂げていくであろう。そうなれば作家、出版社、印刷所、製本所、取次、返本についても大きな変化が起こるであろう。

⑨ 古紙業界

他業界の変化を見てきたが、古紙業界だけ変化しないと考えるのは不自然である。資料で明確なように日本の紙製品の生産量・消費量は2007年をピークに減少を始めている。古紙回収量も2007年をピークとして減少している。その中で産業古紙のシェア

は過去30年以上にわたり低落傾向である。

2010年の古紙回収量は年間2171万トンで仮に売上単価を@15とすると市場規模は3256億円となる。古紙業界最大手の売上が180億円程度なので占有率は約5%強。他業界と比較すると寡占化が進んでいない。古紙は発生物なので簡単にシェアを伸ばせない特殊事情はあるが、今後市場が縮小する中、占有率がどう変化するか興味深い。また流通の短結化は時代の流れであり古紙業界ではどうなるかも興味深い。何れにしる産業古紙だけで商売を続ける事は、今後かなり難しいのではないかと。M&Aとか古紙以外の周辺商材に扱い範囲を広げるとか、新たな回収チャンネルの開拓とか、何かしらの対応をする事が、この先10年、20年で見た場合には必要ではないか。古紙業者同士、東京協組メンバー間の連携も研究課題であろう。青年部の皆さんの柔軟な発想を期待する。

第25回 古紙関係協議会

平成23年7月25日(月) pm4:00～

上野・精養軒 地下1階「銀杏の間」にて開催

出席者：製本工組15名 東京協組18名

毎年恒例となっている東京都製本工業組合(製本工組)と東京都製紙原料協同組合(東京協組)による第25回古紙関係協議会が上野・精養軒で開催されました。

司会進行は、高山総務部長が務めました。

近藤理事長 挨拶(東京都製紙原料協同組合)

今年はリーマンショックから3年目で年初から景気回復が期待されていましたが、大震災の影響で大幅節電という中、景気回復も遅れております。

出版不況、書籍の電子化という近年の流れの中で最近の新聞報道によりますと、大手出版社の本格的電子書籍への参入、大手印刷会社の出版印刷再編の為の大規模投資など我々にとって今後の見通しが大変難しくなっております。又、古紙を主原料とする家庭紙メーカーも震災特需があったものの6月には、その反動で元に戻ってしまいました。価格交渉も難航しているようで我々が思っている以上に状況は良くないと伝わってきております。本日は製本業界の動向、古紙業界の動向などの情報交換をさせて頂ければと思います。



星野理事長 挨拶 (東京都製本工業組合)

製本業界は現在、非常に厳しい状況になっております。京都、大阪、名古屋と関西の方でも厳しい状況となっております。この状況を何とかしたいと考えておりますので本日もよろしくお願い致します。

古紙業界の動向

1. 古紙全般に関する現況 (赤染直納部長)

震災前と後ではバランスが違ってきており、国内価格と輸出価格の格差が広がってきている。

生産は東北が壊滅的で西日本はフル稼働状態。国内の洋紙の需要は伸び悩んでいる。製品についてはバランスが取れているように思われる。段ボール原紙の需要は、夏が多く食品向

けの段ボールは過去最大の生産となった。

古紙の発生は回復していない。古紙原料の価格面についても時間がかかりそうである。

輸出に関しては、6月に再開されたが、放射線の規制がありコンテナ積み時間に時間がかかっている。タイ向けが好調のようである。輸出は震災前に戻ったように思われる。

2. 産業古紙の現況 (上田直納副部長)

裾物3品は輸出に対応できる価格になってきている。

・切付 (マンガさい落)

雑誌の部数に連動しており、古紙原料がメーカーに入り印刷するサイクルが早い。発生は悪く低位安定の原料である。

・家庭紙

製品がトイレトペーパーやテッシュペーパーで乱高下しやすい原料である。震災後は、トイレトペーパーが不足した。トラック等の輸送の手配が出来ず、なかなか東京に入ってこなかった。家庭内備蓄で購買が増えたため、3月～4月は製品在庫が減少した。家庭紙メーカーは、製品をフル生産し、4月には在庫が増え需要も減少してきた。

・オフィス古紙

価格が高く洋紙メーカーとのパイプが細いため輸出に出される事が多い。震災後は、産廃業者が家庭紙メーカーへオフィス系古紙を廻したようである。

3. 古紙回収にかかわる現況 (宮崎集荷部長)

集荷については現在、発生が少ない事が大きな問題となっている。製本・印刷業界の不況の影響を受けており、このまま仕事を継続する事が難しくなってしまうのではないかと悩んでいる状況にある。色々対策を考えメー

カーに納める努力をしていきたいが、発生が少なく古紙が集まらない事や回収したものにコストに見合う価格が付かない問題点を抱えている。集荷の現況は、利幅が少なく厳しい状況にある。



4. 製本業界の動向

書籍は、景気の悪い影響を受けているが、特に、東日本大震災と原発の影響が大きい。電子書籍、アイパッド、アイホン等の電子機器の影響も加速してきている。書店へ行っても面白い本がなく、出版社からも面白い企画が出て来ない。昨年対比で5%～10%の減となっている。

5. 質疑応答

S－製本工組 T－東京協組

T－S：新聞報道を見ると印刷会社大手に動きがあるようだが

S－T：A社ではIT関係を含めトータルで戦略をたてているようであり、B社では何でもかんでもグループの中に取り入れていこうとする動きがあり、それぞれ方向性が違っている。電子書籍は、日本では通信会社とうまくマッチングしないと良い結果が出て来ないのではないかとと思われる。

S－T：ダクズは、そのままでは使用できないのか

T－S：ビニールなど細かい物が混じっているので選別して良い物にしないと売り物にならない。

東京返本加工協同組合

第46回 通常総会開催

東京返本加工協同組合 事務局記

去る、2011年8月22日（月）東京ドームホテルにて5階『初音』の間に於いて東京返本加工協同組合 第46回（平成22年度）通常総会が16時より開催されました。

ご来賓として、東京都製紙原料協同組合 理事長 近藤 勝 様、出版共同流通株式会社 代表取締役副社長 中山 剛 様、税理士法人 西川 会計 西川 豪康 様にご出席を賜り、藤川理事司会のもと総会が開催されました。

審議に先立ち、工藤理事長より冒頭、3月11日発生した東日本大震災の話がなされ、震災に付随した放射能の問題、円高による輸出の問題、業量減による厳しい環境の中で組合員並びに役員一同、力をあわせてこの困難をのりきっていききたいとの挨拶がなされました。



続いて司会者より、組合総数 23名、出席 19名、委任 4名であり、今総会が成立した旨の報告がなされました。続いて7月1日付で新組合員に加入されました、(株) 新央 直江 忠雄様が司会者より紹介がされました。

議長選出では、「司会者一任」との会場から声がかかり工藤理事長が議長に選任され審議に入りました。

今総会では、第1号議案～第8号議案（①事業報告、②決算報告、③剰余金処分案、④事業計画案、⑤収支予算案、⑥借入金残高及び債務保証最高限度額、⑦加工手数料、経費の賦課、加入手数料、⑧役員報酬）の件が提案され、各議案ともスムーズに全会一致にて原案どおり可決されました。

事業報告では、雑誌プレス加工量 前年比 97.3%、組合直接扱い分、前年比 87.9% 合計 96.2%と落ち込み、出版業界の低迷と取次会社の効率販売の影響を大きく反映させた事が報告されました。

全ての議事終了後、ご来賓を代表して出版共同流通株式会社 中山副社長様より祝意と東京返本加工協同組合に対する期待、出版共同流通(株)が10年目を向かえ扱い業量が減少傾向にあり、パートナーシップを強化し、礎を築いていきたいとのご挨拶を賜りました。

閉会の辞では、上田理事より東日本大震災に対してTOMとして義援金をさせて頂いたが、古紙業界全体では1300万の義援金がされた話がされ、厳しい状況が続くなか、過当競争せず組合員の協力をお願いしたいとのご挨拶がされました。

総会に引き続き開催された懇親会は、会場を42階『シリウス』の間に移し

東京都製紙原料協同組合 理事長 近藤 勝様、日本出版販売株式会社 専務取締役 平林 彰様、出版共同流通株式会社 代表取締役社長 高見 吉弘様をはじめ取次各社、出版共同流通株式会社、総勢 58名のご出席により事務局 深澤部長の司会進行により総会懇親会が開催されました。



ご来賓として近藤理事長様、平林専務よりご祝辞を賜り、高見社長の乾杯の音頭で開会し、宴中新加入の組合社が紹介され、TOM 恒例のカラオケ大会では、自己紹介をかねて5人の方々に自慢の喉を披露していただきました。

立食形式の会場には、あちらこちらで、いくつもの輪ができ楽しい情報交換の場となり、協監事の中締めの挨拶をもって19時35分に散会となりました。

お忙しい中、総会ならびに懇親会にご出席を賜りました皆々様、誠にありがとうございました。ご協力に感謝申し上げます。

清風会研修会及び納涼会

広報部副部長 脇 克美

日時：7月4日（月）

午後5時～研修会 午後6時～納涼会

場所：上野・東天紅 参加者：32名

去る7月4日、上野「東天紅」におきまして理事会後、清風会の講演会と納涼会を開催しました。清風会をご存じない方もいらっしゃるかと思いますが、現役の理事と理事OBとの親睦をはかるための組織で年に2回講演会と納涼会・忘年会を開催しています。

講演会は納土社会保険労務士事務所の納土祥滋様にお話し、労務管理についての説明をしていただきました。労働保険や社会保険等について体系的に教えて頂き、大変為になりました。



納涼会では、今回試験的に夫人同伴ということになり、8名のご夫妻がお見えになり、大変華やいだ会になりました。おいしい中華料理と沢山の紹興酒を頂き、大盛り上がりのなか、あっという間に中締めとなりました。



直納部委員会及び納涼会

東京都製紙原料協同組合 事務局記

日時：8月26日（金）

午後5時～直納部委員会

午後5時30分～納涼会

場所：上野・東天紅「海燕亭」 参加者：32名

8月26日上野・東天紅「海燕亭」において直納部委員会と納涼会が開催されました。

午後5時30分から直納部委員会が始まり、各委員長から最近の古紙の市況説明がありました。その後は、共販輸出に関して取引業者より市況等の

説明がありました。

委員会終了後、納涼会になり楽しい歓談のひと時が過ぎていきました。



組合主催ゴルフコンペ開催

青年部幹事長 梨本 竜範

7月31日（日）に組合ゴルフコンペを、栃木県のプレステージカントリークラブで行いました。参加人数5組20名で近藤理事長、清水副理事長をはじめとする方々、初参加の江墨支部の（株）関根商店の関根さん、同じく大洋紙原（株）の酒井さん、城北支部の豊商産業（有）の平井さんを含め、理事長の挨拶、初参加の方々の挨拶があり、西コースのインから9時10分頃にスタートしました。

月末の日曜日だと、ゴルフ場のメンバー月例会コンペが入っていて、混雑するためスタート時間が遅れるのかと思いましたが、無事定刻通りスタートができました。当ゴルフ場の西コースは、「高い戦略性が要求される本格的チャンピオンコース」と謳っているため、参加者の皆様も楽しいゴルフができたことと思います。

私は今回、ゴルフコンペの幹事という大役を初めてやらせていただき、諸先輩方に教わりながら、準備をしました。最初に理事長から日にちを決めていただいたとき、学生が夏休みに入り、ゴルフ場メンバーの月例会のため、早い時間が取れないので行き帰りの交通渋滞が心配でしたが、帰りに少し事故渋滞があっただけで、後は順調でした。

天気の方は、夏なので暑いのは覚悟して、台風、雷雨等で中止になったら、幹事は何をどうしたらいいのか心配でしたが、当日は半袖で調度よい気温でプレイでき安心しました。

最後にパーティー会場で、理事長の挨拶、(株)大久保の大久保社長の乾杯、成績発表をしました。ベスグロが清水副理事長と(株)工藤商店の島田さんで、お2人になると思わなかったので、年功序列に勝手にしてしまい島田さんには、賞品出せなくてこの場を借りてごめんなさい。今回参加された皆様おつかれさまです。初めての幹事で至らぬ点が多い中、天候に恵まれ、皆様に気持ち良くラウンドして頂き、ありがとうございます。今後ともお誘い合わせのうえ御参加いただければ光栄です。最後に今回、理事長の近藤様、直納部長の赤染様、(株)増田商店様の方々賞品を提供下さいまして、ありがとうございました。

成績は次の通りです。

優勝 近藤行輝 美濃紙業(株)
 準優勝 清水弘允 グリーンロジテック(株)
 三位 山口勝弘 (有)山口商店
 四位 近藤 勝 美濃紙業(株)
 五位 酒井貴文 大洋紙原(株)
 ブービー 黒田 義孝 (有)黒田商事
 ベスグロ 88

清水弘允、島田秀彦



印刷産業連絡協議会の青年部参加

青年部幹事長 梨本 竜範

青年部が今期から参加させていただいている、印青連(印刷産業連絡協議会)の移動サロンに8月20日(土)参加しました。



当組合からは、(株)清水、(株)赤松商店、美濃紙業(株)、新井紙材(株)、(株)梨本の青年部員各社1名計5名で朝8時30分に錦糸公園集合して、バスに乗り墨田区の本所防災館で防災体験ツアーをして、浅草の雷5656会館で昼食をとり、江東区にある印刷、デザイン、3Dプリントなどをやっている(株)セントラルプロフィックス、折り、抜き、製本等をやっている(有)篠原紙工の工場を見学して、上野で納涼会という1日でした。当日は、大型バス2台で参加人数約90名、印青連自体が今期で10周年、移動サロンは3回目ということで、これだけの人数をスムーズに移動させたり、各工場の最先端技術を見せてくれたり、青年部としていろいろ勉強しました。当組合から準備、運営を担当して下さった、(株)清水の清水朋子さんの御尽力に感謝します。



青年部納涼会

青年部 近藤 英彰

7月29日、青年部主催の納涼会を上野の「伊勢ろく」で行いました。

当日は、開催の30分前に集合し、歴代幹事長である株式会社大久保の大久保信隆社長より当時の青年部の活動等についてお話をいただきました。業界に浅い私にとって、全てのお話が大変貴重で新鮮なものとして感じられましたし、これまでの歴史を再確認することができました。

現在の青年部は、今年度より坂内部長、梨本幹事長の下、新体制として新たなスタートを切っておりますが、毎年青年部員も増加傾向にあり、他の組合とも積極的に交流しております。

今後とも諸先輩方の活躍に負けないよう、青年部の一員として盛り上げていきたいと思っております。



支 部 便 り

台東支部 納涼会を開催

近藤 昌和

7月30日(土)に近藤清司さんにセッティングをして頂き、上野精養軒のビアガーデンにおきまして9名の参加で台東支部の納涼会を開催致しました。

最初に高山支部長の挨拶で始まり近藤國宏さんより乾杯のご発声を頂きました。冷たいビールの美味しさで、皆、話も盛り上がり、あっと言う間に2時間が経ちまして、私の締めでお開きとなりました。

江墨支部 納涼会を開催

江墨支部長 松井 隆宏

江墨支部納涼会を7月23日に吉野寿司で行いました。今回は青年部も参加し総勢18名でした。理事会報告の後、古紙問屋の東京紙業の鎌田さんに古紙輸出も含め市況説明をしていただきました。又、当支部員の畔上商店の息子さんが、日大三高のキャプテンとして甲子園出場の話をお聞きしました。

恒例のコンパニオンも4名はいり賑やかな時間を過ごし9時にお開きといたしました。

城南支部 納涼会を開催

城南支部長 坂田 智

去る7月30日(土曜日)夕ぐれ6時15分より目黒区白金の八芳園ノクターン6階において、恒例の城南支部納涼会を盛大に開催致しました。当日は結婚式も数多く、大変にぎわっております。納涼会には組合副理事長・清水弘允氏、大同生命・小川重子城南支部担当員をお招き致しました。

井出一之井出紙業株式会社専務の司会でスタートして、坂田城南支部長の挨拶があり、清水副理事長の乾杯の御発声で始まりました。和やかな雰囲気会場が包まれました。可愛いお孫さんの浴衣姿がとても印象的な会でした。宴もたけなわ、ビンゴゲームの余興、賞品の当たりに大喜びする様子が垣間見れて、とても楽しい会でした。



時間の経つのも忘れる程で、中締めは後藤商店の後藤雅太郎社長にお願いし、閉幕となりました。来年もきっと同じ場所で行うような、そんな気持ちで八芳園を後にしました。

記・因みに八芳園（ハッポウエン）は江戸初期の旗本・大久保彦左衛門 御意見番（1560-1639）79才没の下家屋敷跡で、徳川家康・秀忠・家光・三代の将軍に仕え、諸合戦に活躍した人で、その功績により余生を過ごした所と云われている。

文京支部 納涼会を開催

文京支部長 山田 祐康

支部の納涼会は8月8日に池之端の東天紅で開催されました。今年は、東日本大震災等があり、これからも大変な年ですが、頑張っていこうと、20名の支部員・家族・従業員が集まりました。この納涼会は担当幹事の（株）ヨシカワ様が企画し、美味しい中華料理とお土産を頂きました。最後は恒例の写真撮影を前支部長の大柴様から撮ってもらい終了しました。



荒川支部 納涼会を開催

荒川支部長 藤井 康夫

平成23年8月20日（土）、東京湾ディナークルーズにて、荒川支部納涼会を行いました。大人46名、小学生8名、幼児7名の計61名のご

参加を頂きました。



当日は残念ながら、雨模様のあまり良い天気ではありませんでしたが、竹芝栈橋からヴァンティアン号に乗り、出港致しました。メインのお料理は余りにも期待しすぎていたせいか、少しもの足りないなあと思いましたが、屋上デッキなどから見た、羽田飛行場などの東京湾の夜景と夏の夜を楽しむことができました。

一昨年、昨年は屋形舟、今年はクルージングと3年間続けて船ばかりが続きましたので、来年は陸(おか)に上がったの企画を考えております。又、多数のご参加をよろしくお願い致します。



千代田支部 納涼会を開催

千代田支部長 近藤 正彦

去る7月9日（土）に支部員及び、家族、従業員を交えて合計37名で椿山荘でディナー納涼会を開催しました。

久しぶりに一同で会し、賑やかさと楽しさで時間は、あっという間に過ぎました。

ホテルを見たいと言う話は、一度も聞きませんでした。又の機会に、多数、出席するような会を行いたいと思って閉会いたしました。



山手支部 家族・従業員慰安会を開催

山手支部厚生部長 中谷 浩康

去る、8月6日（土）午後6時より椿山荘に於いて家族・従業員慰安会が開催されました。当日は暑い中を61名の参加をいただきました。司会は私、中谷が務めました。

まず、脇支部長のご挨拶に始まり、乾杯のご発声で会食、歓談へと移りました。



今回は料理の方も量・質とも申し分なく、美味しい日本酒・ビール等大いにお酒も進み、宴もたけなわの中、恒例のビンゴゲームの開始となりました。今回はいつもとは、趣きが違い、ビンゴに成ったら、三角くじを引き、1等から4等までの景品が決まるルールです。最後まで、1等が出ないで、ハラハラ、ドキドキでした。

あっという間に時間が過ぎ、長井理事の中締めで

午後8時に名残り惜しくもお開きとなりました。今回も支部員はじめ家族・従業員の皆様には大変お世話になり、有難うございました。

組合員紹介

[荒川支部]

和光紙業株式会社 ミヤウチ 宮内 ケイゴ 啓悟



年 齢 : 37歳
 血液型 : B型
 体 型 : 普通
 業界歴 : 19年
 何代目 : 2代目
 他業界歴 : 1年
 業 種 : 建築ゴムの営業
 趣 味 : 釣り、サーフィン
 特 技 : 釣った魚をさばく
 取得免許 : 小型船舶1級
 好きなスポーツ : 野球
 // 俳 優 : 阿部 寛
 // 歌 手 : 桑田 佳祐
 // 学 科 : 体育
 // 言 葉 : 親しき仲にも礼儀あり
 // 食 べ 物 : 焼肉、寿司
 飲 酒 : する
 タバコ : 吸う（セブンスター）
 いつか行きたい場所 : 豪華客船で世界一周
 古紙業界に入って思う事

気を付けている事 : 事故を起こさないよう
 大切にしている事 : 人付き合い
 業界に入って良かった事 : 体力が付いた
 // 悪かった事 : 休みが無くなった
 組合員同士でネットワークを生かす事 : 興味ある

組合員の広場

五里霧中

広報部副部長 伊藤 滋

7月29日に開催した青年部納涼会に(株)大久保の大久保信隆社長にご足労いただき、青年部設立からの経緯と、この業界での今後の心構えについての貴重なお話を伺う機会をいただいた。

心のノートに書き留めたお話を、私なりの理解にてご紹介すると、「これからは身の回りだけでなく、外部環境にも気を配る必要がある。」ということだ。業界内の動向だけでなく、様々な商品の生産・在庫・物流・消費を国際的視野で捉えることが必要なのだと説いていただいたのだろう。そして特に注目すべきものが為替である。

震災直後、円は対ドルにて戦後最高値を記録した。介入により一旦は円安方向に振れたもの、ヘッジファンドの標的にされた感が否めない。追加の単独介入も効果は限定的である。次いで欧州財政不安とそこから派生した米国国債のレーティング引き下げによって、更なる世界規模での金融危機の様相が深まりつつある。間接的にじんわりと深く忍び込むこの憂慮には、注視以上の対応を期待したいものである。

そんな折、一通の手紙が届いた。消印は宮城赤井局。差出人は宮城県東松島市大塚コミュニティセンターとある。5月の連休を利用し、友人3人にて被災地に向かった時のことを思い出した。乗

用車に積めるだけのささやかな物資を押し込め、いくつかの避難所にお見舞いに伺ったのだ。開封したそこには支援に対するお礼と、「全員が避難所を出て仮設住宅やアパート等に移ることができました。一人一人が自立を目指して一生懸命に前向きにがんばっていきます。」とあった。その報告に嬉しさが込み上げた。報道によると、仮設住宅の暮らしも決して楽ではないそうだ。物理的な問題や法的な制限など、解決すべきことが膨大である。個人では微力だが、その結集が生んだ大きな力はボランティア活動などにより証明されつつある。毎日どこかで、幸せのバトンタッチが繋いでいくことを信じたい。

人それぞれの幸福感は様々であろうが、幸せに満ちた日々を送るのは難しいことである。経済活動の社会では、時に個人の幸福論が否定されることが多い。望まなくも結論有りきの事柄に、つじつまあわせで理由を付け足していかなければならない時もある。納得したふりを自ら科すことも必要となる。それでも自分を見失わないように、立ち位置はしっかりと。こんな時代には、外からの圧力にも何事も無かったようにそそり立つ、やじろべえのような我慢強さと、風見鶏のように時々の風に逆らわない従順さが求められるのかもしれない。



(備考) 風見鶏は、風向計としてよりも魔除けを目的として取り付けられることが多いそうです。

無知と云う名の〇〇

専務理事 夏目 茂

最初にこのタイトルを考えた時に色々な候補が上がりました。無知と云う名の・・「不幸」「悲劇」「暴力」「過ち」「言い訳」とか・・。最終的には、この文章を読んで頂いた皆様が、それぞれ決めていただくとする事にしました。これが何を意味するからは、これからお話する内容と大きく関係しますので少し耳に残しておいてくださると有り難いです。

もう10年くらい前の事です。私は以前、勤めていた会社でホテル等を使った大きな会議やイベントの仕事を任せられていました。仕事柄、ホテルの宴会場を使用したり、レストランでの会食会などで利用する事が多かったのは事実です。そんな事から、ある日、よく利用しているホテルから私宛てに日頃の感謝のお礼にとホテル内のレストランのディナー券が4枚送られてきました。良く使っていたホテルの創立何周年記念かで、関係のある会社に贈呈されたようです。私は、そのディナー券を受け取ってすぐに上司に報告しました。結果、その上司と同僚と後輩と私の4人でディナーに行く事になりました。

そのホテルのレストランは昼でも、それなりの料金を取る店なのでディナーは、満足いくフレンチのコースメニューでした。その時、私の上司が「今夜は、料理代金はかからないので、せっかくのフレンチだからお酒代は自分に任せて欲しい」と言い、ワインメニューをウェイターに見せてもらいました。私はこの当時は、まったくワインには縁のない人間でした。そんな訳で、上司におまかせで赤ワインを1本注文しました。上司は、かなりのワイン通で、その後も2本目、3本目と値段の良いワインを注文して4本目を飲み終えました。4人で4本を1時間くらいで空けてしまい、

私自身、お酒はそんなに強くないので、この時点でかなり酔いが回っていました。

その後、上司が、またウェイターからワインメニューを見せてもらい注文をしようとしたのですが、前に頼んだ4本はすぐにオーダーしたのですが、今回は時間がかかり考えていました。そして「これ、いっちゃおうか！」って言って、又、赤ワインを1本オーダーしました。私は正直いってもうお酒はいらないし、これ以上飲むと吐きそうな気もしていました。(汚い話でごめんなさい)それから、そのワインが運ばれて、テーブルの上に置いてあった一番大きなワイングラスで飲みました。しかし、私はそのワインは4分の1くらいしか飲めず残してしまいました。それから、上司は、又、ワインを注文しようとウェイターを呼びました。その時は、店の支配人が出てきて「もうこれ以上のご注文は勘弁してください」と言い、リキュール酒を1本持ってきて「これは店からのプレゼントです。これを飲んで今日のところはお帰りください」と言われました。その後、皆でリキュールを飲み終えて、上司がクレジットカードで飲み代を清算し帰りました。

翌日、会社で昨夜の飲んだワインの話題ができました。私は最後に飲んだワインの味がとても印象的だったので、残してしまい残念だった感想を同僚に伝えました。私は同僚に、たとえ上司のおごりとはいえワインを5本も御馳走になってしまい申し訳ないので、少し我々三人で酒代を返そうと提案しました。しかし、その同僚は賛成してくれず、逆に、私に「止めた方がいいですよ！」とやってきました。「えっ！何故？」と聞いたら、その同僚は「昨日、最後に飲んだワイン、何てワインだか知ってますか？」と私に聞いてきました。私は恥ずかしながら、当時、まったくワインの知識がなかったので分からないと答えました。同僚が言うには、最初の4本のワイン中、3本は

1万円程度、1本は5万円くらいすると言いました。

そして最後に飲んだ5本目のワインは「ロマネ・コンティ」だったと言うんです。ちなみに、今、レストランでロマネ・コンティをオーダーしたら間違いなく100万円以上取られるでしょう。その時は、10年くらい前で現在より、少しは安かったかもしれませんが、それでも最低で100万円に近い料金が必要だと考えられます。同僚は、「だから一人、10万円くらい払っても全然、足りないから今回は御馳走になりましょう」と言いました。同僚は飲んだワインのラベルをコレクションしていて、そのラベルを見せてくれました。確かに5本目のワインは、今まで飲んだワインとは明らかに違う味がしたのは、酔っていても解りました。私はロマネ・コンティというワインがあるのは知っていましたが、高級ワインというくらいの認識しかなく、詳細はほとんど知りませんでした。私のワインに対する無知さ加減に自分自身、呆れてしまい呆然としてしまいました。それからは、ワインについての知識を高めようと、ほんの少し勉強をしました。



ロマネ・コンティとはドメーヌ・ラ・ロマネコンティ(DRC)社が単独所有するフランスのブルゴーニュ地方、ヴォーヌ・ロマネ村に在る約1.8ヘクタールのグラン・クリュ(特級格付け)のピ

ノ・ノワール種のブドウ畑、又は、そのブドウ畑から産するブドウから造ったワインだけをロマネ・コンティと呼びます。ちなみに1ヘクタールは10,000㎡(100メートル四方の正方形)名前の由来は、ブドウ畑の名称をそのまま付けました。「ロマネ」の部分は、古代ローマ時代にこの畑を生み出したローマ人に由来します。「コンティ」の部分は、18世紀仏ブルボン朝のコンティ公爵に由来します。コンティ公爵は、国王ルイ15世の愛人ポンバドゥール夫人との争奪戦の末、1760年にこの畑を手に入れました。

ワインの平均生産量は、1年間で約6,000本(順調な年で7,000本程度、不調な年で4,000本程度)と極めて希少性が高く「飲むよりも語られる事の多いワイン」と言われるのもしばしばです。

エピソードとして2007年5月22日にニューヨークで開催されたクリステーズの競売では、1985年産の「ロマネ・コンティ」1ダースが23万7000米ドル(1本あたり約2万米ドルで落札)されました。現在は、かなりの円高なので日本円に換算すると1本155万円前後ですが、当時のレートは、1米ドル120円前後です。日本円で1本240万円程度だったと推定されます。

私も昨年春ごろ、飲み会の席で「ロマネ・コンティ」の話題で話をしたところ、同席していた人が「ロマネ・コンティなんて6万円も出せば飲めるだろう?」と言っていました。その時、私は6万円には色々な幅や意味があるので一概に否定はしませんでした。後日、調べたところ、2年ほど前の秋に民放のテレビで放送された人気番組の中で、赤坂の飲食店で、番組予算5万円分で「ロマネ・コンティ」をグラス注文したら、どの位飲めるのか?という番組がありました。その時、サブされてテーブルの上に運ばれたのは、僅か30

c c (グラスワインの1/10未満)だったのです。ちなみにこの時のボトル1本の値段は税・サービス料込みで約110万円(2004年物)でした。その人が言った6万円で飲める?は、ひと口の試飲程度なら出来そうなので、まんざら間違いではないのか・・・との解釈をしました。但し、その6万円がグラス1杯の値段を指して言ったのなら大きな間違いで、ボトル1本の値段を指して言ったのなら話になりませんが・・・。

良く間違えるケースとして「ロマネ・コンティ」が作られるブドウ畑の周りに東西南北と4つのブドウ畑があります。ロマネ・コンティの北側にある畑がリシュブールで、その東側に広がる5.28ヘクタールのピノ・ノワール種のブドウ畑でワインが製造されています。そこから取れたブドウで作るワイン名の頭に一部、ロマネが付くワインがあります。「ロマネ・サン・ヴィヴィアン」です。それでも1本、10数万円から30万円台ですけどね・・・。

1年半くらい前に組合事務所がある傍に、ワイン専門の販売店が出来ました。私は、興味本位とマーケティングのため、昨年、その店に行ってみました。店員に「このお店でロマネ・コンティを置いていますか?」と尋ねたら、普段は置いていないが、注文して数日あれば取り寄せが出来ます、との返答でした。私は「生産された年にこだわらないので、最低で幾らくらい用意すれば買えますか?」と店員に尋ねたら、最低でも100万円は必要だと言われました。もちろん買う気もないし、買えませんので「良く検討してみます」と言い、店を後にしました。(苦笑)

今までワインのウンチクを並べて申し訳ありませんでしたが、最後に次の事が言いたかったのでご勘弁ください。

物事は知っているからこそ、その先に様々な世界が広がってきます。でも、何も知らないと、そ

こでひとつの出来事が終わってしまうのです。



学習をするという事は、数々の失敗を重ね、次に生かしていくから価値があるのだと思います。私が「ロマネ・コンティ」を飲む前に少しでも知識があれば、その時に起きた貴重な時間をじっくり体験し、受け止められたはずだと思いました。

でも、後からでも遅くはありません。知る事と知ろうとする意欲が大切なのです。知っているのと、知らないのでは大違いなんです。今の世の中は、情報が氾濫し複雑化してきています。例えば、年金について最低限の正しい知識があり、知っていれば、きちんとした給付が受けられます。知らないと受けられないケースも出てきてしまうのです。幸い、組合では社会労務士と顧問契約をしていますので、年金について分からない事があれば質問をして知識を高めてください。

他にも、生命保険、火災保険、自動車保険など知っていれば、今より掛金が少なくて同じ内容の保証が受けられる事もあるのです。これらも組合で事業として取り組んでいます。車に関しては、自動車保険以外にも、割安でガソリンの購入が出来たり、高速道路の割引サービスも受けられるのです。廃棄物事業者登録などの資格取得に関しても、組合では行政書士が手続きのお手伝いを出来る体制を取っています(手続きを依頼される場合は有料となります)是非、この機会に周りを見渡して、必要だと思われる知識を高めてみてはいかがでしょうか?今は必要でなくとも、きっといつか、あなたにとって役立つ日が来るかもしれませんよ。

♪ことわざミニ知識♪

「鶏口（けいこう）となるも牛後（ぎゅうご）となる勿（なか）れ」

直訳すれば「小さな動物である鶏であっても、その口になった方が、大きな動物である牛の尻尾になるよりましだ。」ということ。

このことから大きな会社、団体のメンバーとなり、人の後をついて行く事で満足するよりは、小さな会社、団体でもいいから、トップとなり先頭を走る方がいい、という教え。

大きな会社、団体でトップとなり先頭を走る人も、小さな会社、団体で人の後をついて行く人もいるけどね。

われわれ東京協組の組合員のほぼ全員が、このことわざに結果として当てはまる。

現代風に言えば、アントレプレナー（起業家）を目指せということか。

支部スケジュール

千代田支部

- 支部会 10月 5日（水）水道橋 菜の家
- 支部会 11月 7日（金） //
- 支部会 12月 7日（水） 場所未定

中央支部

- 支部会 10月 8日（土）もんじゃきくち
- 支部会 11月12日（土）
- 忘年会 12月17日（土）入船

文京支部

- 支部会 10月11日（火）地球飯店
- 支部会 11月 8日（火）寿し常本店
- 忘年会 12月 8日（木）場所未定

台東支部

支部会 未定

荒川支部

- 支部会 11月10日（木）四丁目町会会館
- 忘年会 12月10日（土）四丁目町会会館
- 12月21・22日歳末夜警パトロール

足立支部

- ゴルフコンペ 11月15日（火）場所未定
- 忘年会 12月3日（土）場所未定

山手支部

- 支部会 10月20日（木）やなぎ
- 支部会 11月19日（土）やなぎ

城南支部

忘年会 12月上旬 場所未定

江墨支部

- 支部会 10月20日（木）吉野寿し
- 支部会 11月21日（月）吉野寿し
- 忘年会 12月21日（水）吉野寿し

城北支部

- 支部会 10月14日（金）場所未定
- 支部会 11月11日（金）場所未定
- 忘年会 12月 9日（金）場所未定

◎静岡県紙業協会家庭紙部会

との懇談会

平成23年10月28日（金）

事前会議：午後1時15分

懇談会：午後2時～

場 所：富士工業技術支援センター

奮ってご参加ください。

お 知 息 せ

[10月会議・催事確認]

- 10月 3日(月) 共販輸出検討委員会
(pm2:00～) 組合会議室
- 〃 常任理事会 (pm2:30)
理事会 (pm4:00～)
組合会議室
- 10月13日(木) 清風会ゴルフコンペ
- 10月14日(金) 青年部 製本二世連合会との
交流会 (pm5:00～)
組合会議室
- 10月19日(水) 関東地区委員会(pm2:00～)
古紙センター会議室
- 〃 直納部委員会 (pm4:00～)
- 〃 集直合同委員長(pm4:45～)
組合会議室
- 10月22日(土) 江東リサイクル協同組合
創立15周年祝賀会(pm5:00～)
ホテルイースト21東京
- 10月27日(木) 古紙センター業務委員会
(pm1:30～)
古紙センター会議室
- 〃 全原連役員会 (pm2:45)
古紙センター会議室
- 10月28日(金) 静岡県紙業協会家庭紙部会
事前会議 (pm1:15～) 懇談会 (pm2:00～)
富士工業技術支援センター

[古紙価格]

[東資協の古紙4品の標準売値]

平成23年8月8日現在

新聞	9円～11円(横ばい)
雑誌	7円～9円(横ばい)
段ボール	8円～10円(横ばい)
色上(並)	7円～9円(横ばい)

[古紙品質調査事業]	平成23年7月～9月価格
[新聞 古紙]	16,000円/トン
[段ボール 古紙]	16,000円/トン

会議概要 [7月]

7月度定例理事会

[平成23年7月4日(月)] pm3:30
出席理事29名 於) 上野・東天紅

近藤理事長挨拶

いよいよ夏の大規模な節電のシーズンとなってまいりました。多くの工場が勤務日や作業時間を変えて対応したり、何処へ行っても過ごしにくいと言った場面が増えてきています。

先日、大手出版会社が電子書籍に本格的に参入となり、我々の業界も古紙の発生が減少している中、依然として厳しい状況が続いています。

本日は、この後、清風会の研修会と納涼会がありますが、よろしくお願い致します。

[各部報告]

[直納部]

7月度の共販輸出は、3社が入札に参加しました。入札価格結果は、(株)松本光春商店が前月より50銭の下げだが、国内価格を上回っての落札となりました。仕向地は中国で市況は、為替の動きは鈍いが6月下旬より7月に向けての買いが好調で、主要3品の価格は上昇。現在は急激な上昇をともなっているが、今後は価格水準は下降し安定するだろうと推測する。又、落札できなかった別の仕向地であるフィリピン、韓国の市況では、前月に引き続きこの手の品種が若干、ダブつき気味

で、購買意欲も芳しくない状況。製品の在庫過多、パルプの価格の弱含みもここにきて影響が出てきている。

6月に行われた静岡県紙業協会家庭紙部会との懇談会では、以下の資料を配布しました。原料問屋の組合である関東商組の三紙会から「古紙市況報告」これには東京協組の上物古紙の在庫状況が掲載されています、又、日本製紙連合会から「紙・板紙需給速報」、公益財団法人古紙再生促進センターから「紙・板紙向別古紙品種別消費量推移」「古紙需給推移」「段ボール、新聞、雑誌の消費実績及び計画」を配布。今後は、家庭紙メーカーからも会議の前に事前にデータを集計してもらいお互いの資料を元に議論をすすめていきたい旨を伝えた。

直納部主催の海外メーカー工場視察は、シンガポール・マレーシアで9月17日（土）～9月21日（水）に決定した。

21日（水）は成田午前7時着予定。

市況全般では、このところ輸出でタイ向けの価格が上昇。震災前のピーク時に近い価格が出てきている。中国は後退気味。

発生は依然として東日本は、3品とも回復していない。関東、関西でもタイトに推移している。裾物3品ともタイトであり仕入価格は、ここにきて輸出価格に連動している。高値が出てきており国内販売価格を上回る。古紙問屋の受入れ状況は厳しい状態となっている。

【品目別市況】

【家庭紙】 家庭紙メーカーの製品在庫が膨らみつつある。古紙原料在庫も現在のところ潤沢のようである。産業古紙の発生は低位のまま推移している。今後、輪番停電や岳排の影響で古紙の受入れがどうなっていくのか。秋以降の見通しをつけるのが難しい状況である。

【段ボール・新聞・雑誌】 裾物3品の発生は回復しておらずタイトに推移している。輸出先では、タイに高値が出ている。中国は後退気味である。

【上台紙】 基本的には変わらない。輸出をしているところは強いようである。

【返本雑誌】 6月の発生は前年比で5%～10%落ちている。価格は変わっていない。節電の影響が出てきている。

【オフィス古紙】 発生は少ない。機密などで焼却に廻っている物をどれだけ回収できるかが鍵となっている。メーカーが直接に回収に廻っている所もチェックする必要がある。

【集荷部】

発生が悪く仕事がなくなってきている。製本関係で臨時休業のところがあり余計に発生が減少している。

【広報部】

広報誌の7月号の原稿提出をお願いしたい。締切日は7月4日（月）だが、まだ出てきていないところが多いので今週いっばいに締切期限を延ばすので提出してほしい。広報誌の表紙は、今まで城南支部の梶野さんに依頼をしていたが、今後は難しいようである。7月号までは写真を頂いているので、9月号からの表紙を出来れば組合員からの募集作品で風景写真、個人のスナップ写真、絵、筆などで掲載を考えている。

組合総合名簿の作成を今月から始めたい。掲載広告の依頼を各担当者をお願いしたい。組合員には広報7月号発送の際、各自の住所や社名変更等の確認書を同封する予定。尚、今回よりメールアドレスを掲載する。

【事業部】

本日の清風会研修会の講演者、納土社会労務士の

紹介をする。

[青年部]

今月に納涼会を開催する予定。先日、幹事会を開き年間スケジュールを決めた。組合のスケジュールに載せていきたい。

7月31日(日)に組合ゴルフコンペで残り数名の空きがあるので参加連絡をして欲しい。

[近代化推進委員会]

経営革新委員会：古紙リサイクルアドバイザーのテキストを希望者に組合事務局より送付した。

[その他]

・脱退者に対する審議：城南支部、(有)丸幸紙業(代表者 近藤 幸彦)廃業のため平成23年6月30日で脱退。

原案どおり承認可決。

・全原連からの原価構成比較調査のアンケートについて：古紙の高値入札に関係した原価構成比較の調査なので、集荷業者の多い東京協組としては適切なアンケート内容とならないため理事長を通じて全原連へ説明してもらおう事とした。

古紙センター関東地区委員会

[平成23年7月26日(火)] pm 4:00～
於) 古紙センター会議室

[需要動向] 11 / 7月 単位トン、
() は対前年同月比、在庫の () は在庫率

[関東商組 32 社実績]

[新聞]	仕入	69,200(95.0%)
	出荷	69,410(95.8%)
	在庫	10,547(15.2%)

[雑誌]	仕入	50,644(101.7%)
	出荷	51,583(102.2%)
	在庫	7,061(13.76%)

[段ボール]	仕入	128,844(103.0%)
	出荷	128,876(104.7%)
	在庫	12,435(9.6%)

[関東・静岡実績]

[新聞]	入荷	177,190(72.9%)
	消費	184,977(81.5%)

	在庫	150,791(81.5%)
--	----	-----------------

[雑誌]	入荷	102,942(87.0%)
	消費	116,032(98.1%)

	在庫	51,246(44.2%)
--	----	----------------

[段ボール]	入荷	273,586(90.2%)
	消費	283,631(96.5%)

	在庫	83,338(29.4%)
--	----	----------------

[業者側コメント]

[新聞・雑誌]

新聞の発生は相変わらず良くない。雑誌の発生は6月は良かったが、在庫はランニングストック状態である。輸出については、5月は中国向けが増えている。6月は横ばい。7月は伸びてくるのではないかと思われる。

[段ボール]

6月のメーカーの生産量は増えており生産ペースは良い状況である。入荷は、やや悪く消費は多い状況。7月は猛暑の影響でプラスの傾向にある。

[上物古紙]

発生は6月、7月は低調。製本関係は仕事量がピーク時から40%減少し、関係業者の70%が赤字状態である。家庭紙は製品在庫が増加し価格は下がってしまった。上物古紙在庫は6月、7月と前年を上回っている。

[メーカー側コメント]

新聞は入荷が落ちてきている。古紙原料の在庫は6月、7月と横ばい。消費は3月以降、80%で推移している。被災した際のダメージ品が古紙に廻っており、メーカーはバランスしている。新聞洋紙は横ばい。

古紙センター業務委員会

[平成23年7月27日(水)] pm1:30～
於) 古紙センター会議室

[1] 平成23年度事業の実施状況について

- ①古紙回収推進事業
- ②日中古紙セミナー
- ③紙リサイクルセミナー
- ④その他の事業

- ・冊子「古紙の品質を守るために」改定
- ・リサイクル対応型紙製商品開発促進対策調査
- ・紙リサイクル研修会

[2] その他

平成23年度古紙品質調査事業(関東、中部地区実施)の調査結果概要について

[3] 古紙の需要・市況動向について

*ページ数の関係で割愛させていただきます。

全原連第3回役員会

[平成23年7月27日(水)] pm3:45～
於) 古紙センター会議室

理事・監事64名:出席64名(内、委任出席39名)欠席0名

(1) 古紙再生促進センター 関係

- 業務委員会(7月27日開催)

◎業務委員会委員(33名)一部変更について

- ・新任:齋下誠一(王子板紙(株)佐賀工場工場長)
松浦忠雄(北越紀州製紙(株)国内資源部長)
紅葉谷義高(王子板紙(株)佐賀工場事務部長)

- ・委員の任期:平成23年4月1日～
25年3月31日

◎平成23年度事業の実施状況について

①古紙回収推進事業

- ・日本製紙連合会会員企業有志からの拠出金による古紙回収推進事業を実施する。

センターに実行要請のあった「環境保全のための追加貢献について」の趣旨・目的を尊重し、センター本部に「古紙回収推進特別委員会」を各地区には「古紙回収推進実行委員会」を設置し、今年度は事業を実施する。

②日中古紙セミナー(中国要人の日本への招待計画案)

- ・近年、古紙は国際商品となり、輸出量が国内の古紙需給に多大な影響を及ぼすようになってきている状況を踏まえ、日本から輸出量の多い中国の古紙市場の現状と将来の動向を把握するため、中国の地方政府、古紙関係協会団体、製紙メーカー等を対象として、現地での定点調査を実施していくこととしている。

日時:平成23年10月11日(火)

15:00～18:00

会場:憲政記念館

③平成23年度「紙リサイクルセミナー

開催日時:平成23年10月7日(金)

13:30～15:55

開催場所:東京商工会議所国際会議場

(275名収容)

④平成23年度のその他主要事業

- ・冊子「古紙の品質を守るために」改訂

- ・紙リサイクル対応型紙製品の開発促進対策調査

- ・紙リサイクル研修会

◎平成22年度古紙品質調査事業（関東・中部地区実施）の調査結果について

- ・段ボール

（関東地区計画：525 t、中部地区計画：240 t）

新聞

（関東地区計画：495 t、中部地区計画：210 t）

- ・関東地区（メーカー：段ボール8社12工場

新聞9社16工場）

（直納業者：段ボール34社、新聞31社）

- 中部地区（メーカー：段ボール6社8工場、

新聞5社5工場）

（直納業者：段ボール15社、新聞13社）

- ・外観調査及び開梱調査を実施

◎夏期一斉休業

- ・平成23年8月10日（水）～8月15日（月）

◎今後の日程

平成23年9月29日（木）13:30～14:30

第5回業務委員会（センター会議室）

平成23年10月27日（木）13:30～14:30

第6回業務理事会（センター会議室）

尚、8月は休会です

（2）経済産業省 関係

- 第1回経済産業省との懇談会

（7月19日開催）

- ・出席者：経済産業省（坂本課長、佐々木係長）

全原連（栗原理事長、矢倉副理事長、石川副

理事長、近藤副理事長、瀧本理事、山室理事、

新井理事、須長理事）

- ・意見交換：テーマ「震災後の古紙動向及び需

給状況」について

- 「J－BRAND」について懇談（7月27日開催）

- ・出席者：経済産業省（船橋課長代理、佐々木係長）全原連（瀧本理事、梶野理事）

事務局（富所専務）

- ・場所：銀座キャピタルホテル

- ・「J－BRAND」進捗状況、必要性、メーカーの対応、国の支援等説明を行う。

（全原連、瀧本理事 経営革新委員会委員長）

（3）全原連 関係

◎審議事項（役員会上程、承認事項）

①「古紙リサイクルアドバイザー」申請認定について・・・承認

- ・リサイクルアドバイザー：7月15日（1社、2名）累計（440社2,080名）

②古紙市場安定化検討委員会の開催について・・・承認

- ・経済産業省22年度予算で「古紙市場安定化に関する調査報告書」を作成。

再度、24年度予算に計上予定あり、全原連として古紙市場安定化検討委員会を立ち上げ23年度中に研究、調査、検討をするための委員会を設置する。

- ・委員の構成は全原連（理事長）、関東商組（理事長、副理事長、需給委員会副委員長）とする。

- ・日程：第1回9月21日（水）

13:30～14:45、議題：中国の動向

第2回11月21日（月）、

第3回2月20日（月）、

第4回3月21日（水）

③近代化推進事業委員長の交代について・・・承認

- ・需給委員会：大久保信隆委員長から藤川達郎委員長へ

- ・ 渉外広報委員会：藤川達郎委員長から須長利行委員長（副委員長）へ
- ④ B I R 及び古紙国際会議への今後の対応について・・・承認
 - ・ 日本の会員としては現在、鉄リサイクル工業会のみ
 - ・ 大会は年2回開催（春は総会、秋は分科会）
 - ・ 会員（団体年会費：1500ユーロ、約17万円）
 - ・ 今入会の申し込みをすると来春の総会で承認される。（承認までは暫定会員）
 - ・ 参加人員：5名以内、負担：全原連3分の2、自己3分の1
- ⑤ 適正仕入価格（適正コスト）標準指標調査資料提出について・・・承認
 - ・ 原価構成比調査表の作成上の留意点（代納分も含めて経費全額計上）
 - ・ 提出期限：平成23年9月上旬
- ⑥ 古紙持ち去りに関する動きについて
 - ・ 古紙持ち去り問題対策協議会報告に係る意見交換会（7月14日開催）
- ⑦ 日本経済新聞全国版、全原連広告掲載について・・・承認
 - ・ 震災復興広告の掲載依頼あり、70万円のところ30万円で交渉。
- ⑧ 経済産業省の組織再編について
 - ・ 平成23年7月1日付、紙業生活文化用品課から紙業服飾品課へ名称変更
- ⑨ 全原連事務局夏季休暇について
 - ・ 夏期休暇期間：平成23年8月12日（金）～8月16日（火）

（4）近代化推進事業委員会報告

●経営革新委員会

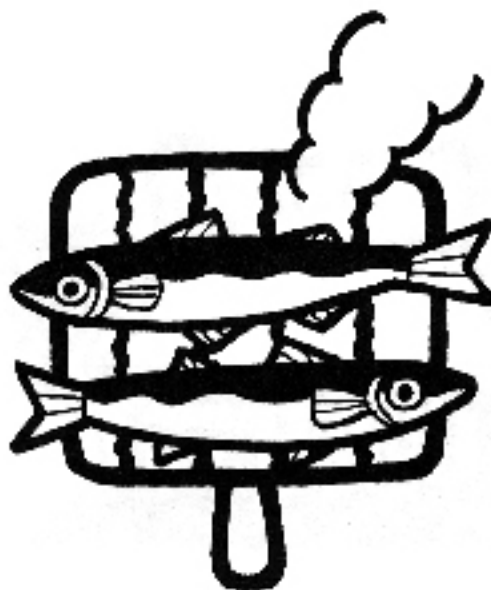
- ① 「古紙リサイクルアドバイザー」及び「古紙品質管理責任者」認定試験の概要
- ② 「日本古紙品質認定制度（J－BRAND）トライアル事業進捗報告
関東商組でトライアル7月一杯で終了、8月にアンケート実施する。

●需給委員会

- ① 日中商品検査㈱「自主検査規定の遵守のお願い」の実施
- ② 古紙国際会議開催
 - ・ 4年後を目途に古紙国際会議を誘致することについて準備委員会を具体的に立ち上げる。
 - ・ 国、メーカー、古紙再生促進センター等関係機関と協議する。
 - ・ BIRに入会し、国際会議に参加して情報収集及び開催に向けてPRをする。

●渉外広報委員会

- ・ リーフレットの配布状況の調査（自治体関係調査状況等）
- ・ 8月24日（水）～25日札幌で開催予定



広報誌 表紙写真募集の件

広報部部长 清水 弘允

皆様には日頃より組合活動にご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて広報誌の表紙は、従来、特定の組合員様のご協力で写真を提供して頂いて参りました。

しかしながら諸般の事情により、今後その写真の利用ができなくなりました。

そこでこの機会に、組合員の皆様から表紙を飾る写真を公募したいと思います。

下記の要領で、奮って写真をご応募ください。

お待ちしております。

募集要項

募集写真：白黒またはカラー写真

焼き付け または 添付ファイル

題 材：風景、季節、催事を扱ったもの

提出時期：随時

提出先：

〒110-0016 東京都台東区台東 3-16-1

東京都製紙原料協同組合 事務局

TEL 03-3831-7980

FAX 03-3831-7880

E-mail : info@kosi-tokyo.or.jp

ご質問等は、事務局までお気軽にご連絡ください。



編集後記

広報部副部长 伊藤 滋

9月。旧暦では長月。長月の由来は諸説あるが、だんだん夜が長くなる『夜長月（よながつき）』の略が有力らしい。その夜を彩る十五夜の月は中秋の名月と呼ばれ、人々の心を和ませてきた。今年の秋分の日は9月23日。さすがにこの頃には、秋の訪れを感じさせてくれることに出会えるだろう。では、秋の始まりの日、立秋はどうであったか？今年の立秋は8月8日。猛暑続きに加え、国を挙げての節電によって、厳しい毎日との我慢比べが展開されたのではなかろうか。

秋分や立秋などは、1年を24等分した区切りに名前を付けたものである。この暦を表す言葉を二十四節気という。二十四節気は、太陽が黄道と呼ばれる太陽の天球上の通り道のある位置を通過する日付を示している。太陰暦を用いていた中国古代、大陸内陸部の中原と呼ばれる地域に誕生した。日本の気候とそぐわないのがあるのはそのためである。

立ち位置が違えば、物の見え方や感じ方が違ってくるのは当然のこと。葛飾北斎の浮世絵「富嶽三十六景」に同じ富士山は一つとしてない。同一人物の見た富士が、それぞれの地によって違った感覚で表現されている。仮に、同じ場所から見た風景も、異なった経験というまったく別の人という条件であれば、各々が受ける感覚は、それぞれに違ったものになるのであろう。更に立ち位置の差異という要素が加われば、ものの捉え方が全く違うものに作用してしまうことも仕方の無いことだと、編集後記のデビュー戦の私をお許しいただければ、ありがたく思います。